

資 料 集

定期総会と記念シンポジウム

働く障害者たちはいま一緒に生きる職場・地域を探る

6月12日(日) 総会 13:00～ / シンポ 14:00～ 越谷市中央市民会館5F第2,3会議室

プログラム

総合司会：NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

問題提起：なぜいま「働く障害者等のたそがれ社会参加スペース」なのか
NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

パネルディスカッション：

パネリスト：尾谷 英一さん（株式会社ニューオタニ社長）

科野 玄平さん（障害者就労継続支援A型事業所・あかり施設長）

大野 弘幸さん（三郷市障害者就労支援センター・就労支援員）

若林佳誉子さん（春日部市障害者生活支援センターえん・生活支援員）

幡本 建祐さん（働く障害者）、働く障害者の家族

コメンテーター：越谷市障害福祉課副課長 角屋亮さん

春日部市障害福祉課（依頼中）

コーディネーター：朝日 雅也さん（埼玉県立大学社会福祉子ども学科教授）

主催 NPO法人障害者の職場参加をすすめる会 後援：越谷市・春日部市

連絡先：〒343-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒 048-964-1819 (FAX 共)

資料集もくじ

はじめに	1
問題提起：	
なぜいま「働く障害者のたそがれ社会参加スペース」なのか	2
Q & A 世一緒とは？その一部リニューアルとは？	3
越谷市障害者就労支援センター月別利用人数集計表	5
越谷市就労支援事業の10年一何をどこまでやってきたか	8
パネルディスカッション：	
働く障害者たちはいま一緒に生きる職場・地域を探る	
1. 雇用主の立場から 尾谷英一さん	9
2. 就労支援施設の立場から 科野玄平さん	11
3. 就労支援センターの立場から 大野弘幸さん	14
4. 生活支援センターの立場から 若林佳誉子さん	15
5. 働く障害者の立場から 幡本建祐さん	16
参考資料	
総合支援法見直し関連	18
埼玉新聞「障害者雇用は今」	19
世一緒スタッフ日誌	21

2016年度定期総会記念シンポジウム 働く障害者たちはいま-共に生きる職場・地域を探る

はじめに

このシンポジウムを開催できることを、とてもうれしく思います。年度初めと暮れに行うシンポジウムは、定款に掲げられた事業であり、当会の成り立ちに関する大切な活動です。

当会が取り組む事業は、事業の対象者・関係者のくらしや権利を支えるために行われることはもちろんですが、それだけではなく「共に働く街づくりの試行事業」と位置付けています。

試行事業だからこそ、公開のシンポジウムなしには進めないのです。

当会の「職場参加」とは、第1に「就労のハードルを限りなく下げる」、第2に「あらゆる職場を共に働く場に」という内容です。

就労、働くことは、働く本人と事業所や地域との相互関係なくしては成り立ちません。従来、本人には「訓練して能力がついてから就職活動」、事業所には「(誰かわからないが) 障害者の雇用拡大を」と求める施策が主になっていました。それに対して、当会は「週1時間でも働いてみたい」という人にはそれに合わせた職場開拓をするなど、相互関係を大事にした就労支援を支援センターで行い、実績を積み重ねてきました。

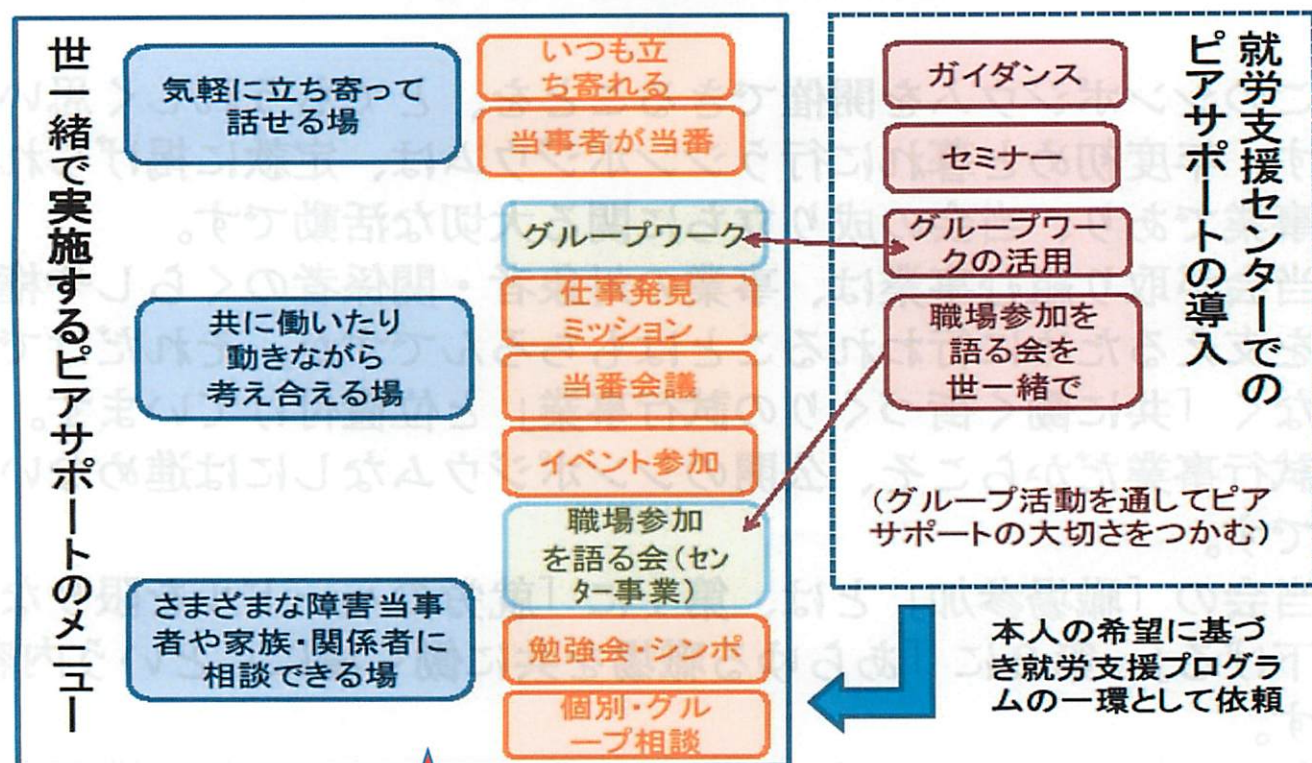
支援センターの受託は10年で終わりましたが、ひきこもっている人、就労準備性が乏しいとされた人、就労現場での悩みや地域生活の不安を抱えている人…さまざまな人々が世一緒に立ち寄ります。また、「あらゆる職場を共に働く場に」はさらに切実なテーマとなっています。

受託終了1年を経たいま、世一緒にの役割があらためて浮き彫りになり、「働く障害者のたそがれ社会参加スペース」事業が発足しようとしています。この状況に、異なる立場から光を当てていただきたく、シンポジウムを企画しました。

問題提起：

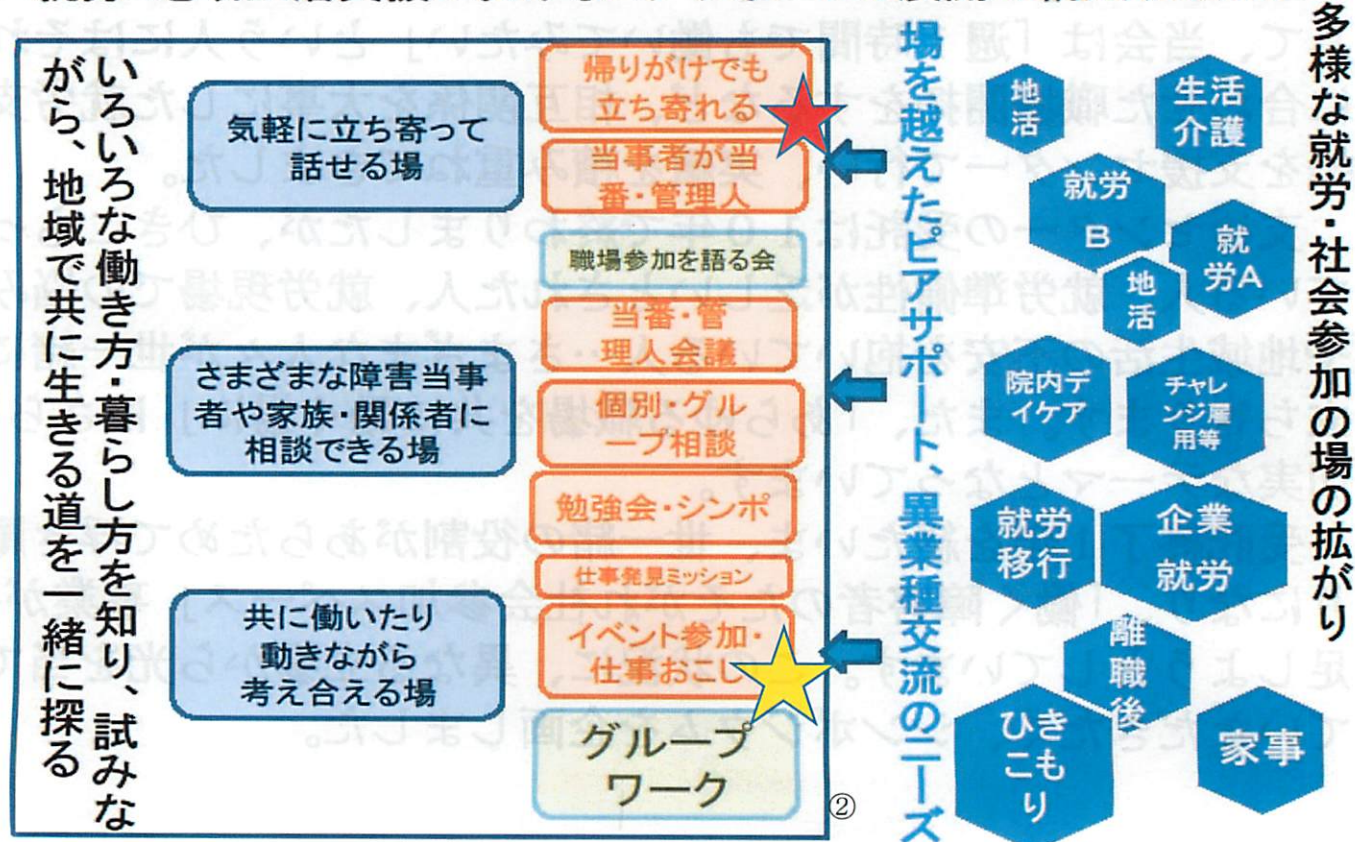
なぜいま「働く障害者等のたそがれ社会参加スペース」なのか

就労支援におけるピアサポートの展開の構造（～2015.5）



世一緒の一部リニューアル

就労・地域生活支援におけるピアサポートの展開の構造（2015.6～）



素朴な疑問に答えます

Q. なぜ「社会参加」じゃなくて「職場参加」というんですか？



「障害者の社会参加」としてとり上げられるのは、ショッピングやスポーツ、文化・芸術、社会教育などが主です。そのための施策として、バリアフリーや情報保障、ボランティアなどが挙げられます。

時に「就労は最大の社会参加」と言われることもありますが、「就労」は「社会参加」と別の枠組みになっていて、障害の状況に応じて分けられた場が基本になっています。そこで、地域の一般の職場は、限られた少数の障害者だけが参加できる場とされています。他の大多数

の障害者にとっては、地域の一般職場は「社会」ではないのです。逆に、職場にいる障害のない人々にとって、ほとんどの障害者は宇宙人と同じです。

「職場参加」とは、宇宙人と思われている障害者たちも、柔軟な方法を駆使して、地域の職場に参加してゆこうという取り組みです。長時間はムリでも、週半日の片付けの仕事ならできる、一人ではムリでも、障害者数人に支援者が一人付いて仕事を請け負うやりかたならできる…。そこまでいかなくとも、支援者がついて短時間実習するだけなら。できることから、しかしその形を固定化せず、障害者・関係者と職場の人々が顔見知りになり、ざっくばらんにつきあいを重ねながら、共に働く社会を切りひらいてゆくことです。

Q. ピアサポートって何か役に立つんですか？



ピアサポートは、「職場参加」に欠かせない活動です。

そもそも「就労」とは、働く本人と職場の同僚・事業主との相互関係（せめぎあい）によって成り立つコトです。昔は、「まず治療・訓練に専念して力が付いたら就職活動」という発想が強くありましたが、いまでは病気や障害とつきあいながら、「職場参加」を進め、その経験を通して「就労」を考えてゆくというプロセスが重視されつつあります。

この「病気や障害とつきあいながら働いたり、生活したりする」ということについては、多くの専門家よりも一人一人の障害者の体験が役に立ちます。といっても、一人ひとり状態はちがうので、そのちがいを伝えあいながら、一緒に考えてゆくことが大事です。また、言葉だけでなく、実際に地域に「職場参加」を進める中で具体的に考えてゆくことです。

ピアサポートは、「訓練・指導の対象」とみなされてきた障害者のイメージを一新します。が、それだけでなく、共に働く街づくりにピアサポートは不可欠なのです。

Q. 就労センター受託が終わったのに、まだやるんですか？



やることにしました。初めは、新体制でセンターが機能しだすまでの間、これまでの支援員が世一緒でも対応できますという形で、センターに相談に来ていた人たちが就労定着や就労準備を混乱なく行えるようにということだけを考えて動いていました。それがなんとかできた段階で役割は終わると考えました。

しかし、数ヶ月後も、世一緒には、就労準備中の人や離職準備中の人などが、相変わらず来ていました。

そこで、当番会議やピアサポート研究会など、話し合いがあるたびに、世一緒は通いの場ではなく、旅立ちのためのベンチだということをみんなで確認し合いました。その結果、秋から現在までに、一般就労やA型、B型などへ、当番や日中の活動に来ていた人たちの多くが、旅立っていきました。

とうぜん日中の活動に参加する人々は減りました。が、ひきこもっていたり、家事に追われていた人達は、もともと主にグループワークだけに参加しており、変わりありません。生活支援センター等から新たに紹介されてきた人も若干加わっています。

そして、世一緒から巣立っていった人たちが、夕方に世一緒に立ち寄ることが増えてきました。早く終わる就労A型の利用者が3時半ごろからやってきます。5時ごろになると、徐々に一般就労している人たちが立ち寄って、会社や家族の話をしたり、挨拶して通ってゆきます。

再び、世一緒の役割を考えました。就労支援だけではなく、離職支援から職場参加支援を含む、やわらかな地域定着のためのピアサポートの場。そして障害者支援だけでなく、職場支援を含む共に働く街づくりの場。「たそがれ」もそのために立ち上げます。

Q. お金はどうなってるんですか？



厳しいです。就労支援センター受託終了により、公費が絶たれました。会費、グループワーク事務管理費、民間助成金、寄付金が主な収入です。

事業の趣旨に合った公的制度はありません。障害福祉サービスの諸事業は毎日通うことが前提であり、職場参加の活動に大きな支障をもたらします。障害者雇用の助成金は、自前の働く場が前提であり、地域の職場全体を共に働く場にしてゆく活動と合致しません。

しかし、今後の地域社会に必要な事業であり、公費助成を追求してゆきます。また、会員内外からの協力金を募ることも検討中です。

越谷市障害者就労支援センター月別利用人数集計表

1. 個人利用者

(1)ー1 相談件数

H27 年度	開所 日数	相談件数(来所)					相談件数(電話・FAX・メール等受信)					合計
		身体	知的	精神	その他	小計	身体	知的	精神	その他	小計	
4月	21	43	157	97	12	309	4	58	51	0	113	422
5月	18	8	45	63	5	121	8	39	38	0	85	206
6月	22	15	73	72	6	166	1	33	19	1	54	220
7月	22	8	61	45	1	115	4	39	34	0	77	192
8月	21	9	43	50	1	103	0	25	29	0	54	157
9月	19	10	53	51	1	115	2	37	28	2	69	184
10月	21	8	54	59	3	124	4	31	20	3	58	182
11月	19	9	52	61	1	123	1	30	19	0	50	173
12月	19	8	53	61	1	123	7	39	30	1	77	200
1月	19	10	66	51	3	130	9	28	26	6	69	199
2月	20	10	65	61	2	138	5	39	31	2	77	215
3月	22	33	87	56	1	177	1	51	27	1	80	257
合計	243	171	809	727	37	1744	46	449	352	16	863	2607

※うち、身体・知的の重複22件 知的・精神の重複3件

(1)ー2 相談者内訳

H27 年度	新規利用者		継続利用者		合計
	手帳有	手帳無		うち就労者	
4月	13	5	404	127	422
5月	7	0	199	81	206
6月	6	0	214	97	220
7月	11	1	180	85	192
8月	12	0	145	77	157
9月	12	0	172	80	184
10月	14	0	168	71	182
11月	10	1	162	68	173
12月	12	1	187	108	200
1月	11	2	186	102	199
2月	12	2	201	107	215
3月	13	1	243	158	257
合計	133	13	2461	1161	2607

(2) 支援登録※

H27 年度	新規登録		登録者累計				
	手帳有	手帳無	身体	知的	精神	その他	合計
4月	11	2	81	227	190	15	513
5月	8	0	82	230	194	15	521
6月	7	0	84	232	197	15	528
7月	11	1	85	240	199	16	540
8月	12	0	88	242	205	17	552
9月	15	0	91	245	214	17	567
10月	14	0	93	247	224	17	581
11月	13	0	94	253	230	17	594
12月	11	0	97	254	237	17	605
1月	11	0	98	256	245	17	616
2月	14	0	99	257	256	18	630
3月	11	1	100	259	263	20	642
合計	138	4					

※支援登録は、面談の内容から個別支援計画による継続した就労支援が必要と判断した者（地域適応支援の者は含まない。）

(3) 訪問・ガイダンス等

H27 年度	訪問	発信	ガイ ダンス 参加 者	セミ ナー 参加 者
		電話 メール		
4月	60	59	0	3
5月	59	94	0	6
6月	2	23	7	7
7月	0	22	6	6
8月	6	23	6	0
9月	0	10	0	0
10月	2	15	0	6
11月	0	10	0	4
12月	0	8	0	2
1月	1	13	0	3
2月	0	13	0	4
3月	1	14	0	0
合計	131	304	19	41

(4) 就労件数

H27 年度	新規 就職者数		新規就職者障がい別内訳				離職 者数	継続 就労 者数
	手帳有	手帳無	身体	知的	精神	その他		
4月	22	0	6	12	4	0	4	304
5月	8	0	1	6	1	0	2	310
6月	3	0	2	0	1	0	0	313
7月	5	0	0	1	4	0	7	311
8月	5	0	0	1	4	0	1	315
9月	4	0	0	0	4	0	4	315
10月	6	0	0	1	5	0	2	319
11月	5	0	0	1	4	0	2	322
12月	7	0	2	3	2	0	4	325
1月	15	0	3	2	10	0	10	330
2月	11	0	2	3	6	0	2	339
3月	8	0	0	1	6	1	6	341
合計	99	0	16	31	51	1	44	

2. 事業所対応※

H27 年度	訪問							来所	連絡(電話・メール)	
	職場巡回	JC	相談	面接同行	見学同行	職場開拓	合計		受信	発信
4月	27	13	8	1	6	1	56	10	74	65
5月	37	0	4	0	6	0	47	5	27	47
6月	21	0	6	3	0	0	30	4	3	31
7月	28	0	5	2	4	1	40	6	17	37
8月	23	0	13	0	5	2	43	6	15	32
9月	16	0	7	2	10	1	36	3	12	31
10月	13	0	20	0	11	0	44	4	9	24
11月	21	0	6	5	6	0	38	0	10	30
12月	27	0	8	7	10	1	53	3	20	31
1月	13	0	12	2	5	1	33	2	23	25
2月	33	0	13	3	12	0	61	5	23	35
3月	34	0	15	5	9	0	63	4	18	32
合計	293	13	117	30	453	7	544	52	251	420

※ここでの「事業所」とは、センターの利用者が就労する相手方のこと。

3. 関係機関対応

H27年 度	訪問	来所	連絡(電話・メール)	
			受信	発信
4月	24	19	47	21
5月	8	15	30	14
6月	7	20	17	7
7月	7	25	39	16
8月	37	16	24	21
9月	3	15	33	28
10月	38	16	39	55
11月	15	13	29	30
12月	14	13	40	26
1月	20	26	38	23
2月	24	13	35	25
3月	18	11	32	23
合計	215	202	403	289

越谷市障害者就労支援事業の10年一何をどこまでやってきたのか

越谷市障害者就労支援センターの10年をグラフでふりかえってみます。まず、開設5～7年目に新規の相談者が最も少なくなりました。就職者数も6年目は最低でした。ただ、これは越谷だけの現象ではなく、職場に就労している利用者が増えその継続就労の支援が増えてくることにより、新規の相談・支援が十分にやりきれなくなるという傾向が、他のセンターでも報告されています。

この傾向に対して、一般には新規相談者個人の特性や能力をきめ細かく判定し、就労の準備が整っていないとみなされる人には福祉施設等での訓練を勧めるなどした上で、直接支援する対象者をしぼるといった対応が考えられます。当センターでも、当初はそうした見極めにより対応しようとしていました。

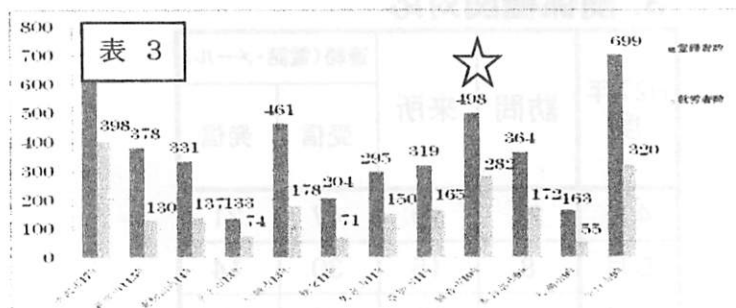
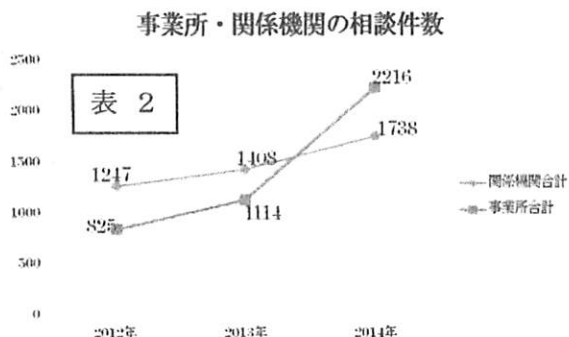
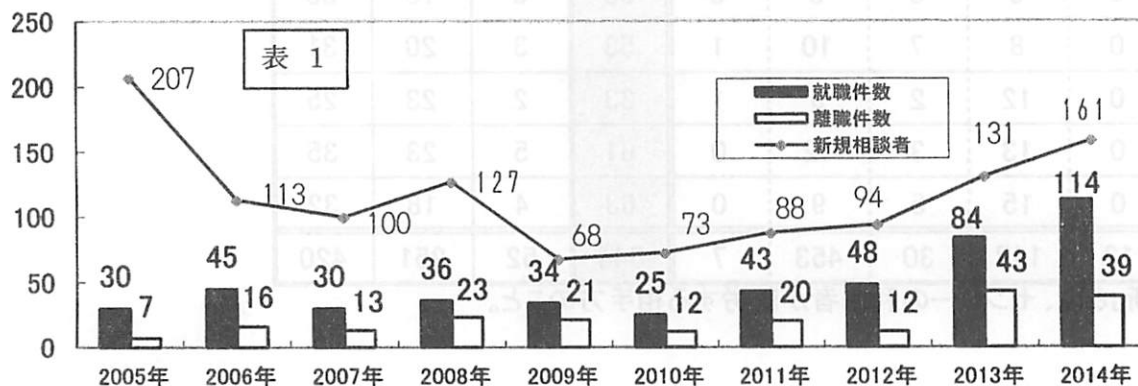
でも、越谷市の仕様書では「本人の就労に対する思いや社会での雇用状況の中で本人の自己決定が尊重されるように」、「職場での体験をできるだけ多く取り入れ、障がい者の就労意欲と自己選択能力を高め」、「就労後及び離職後の援助不足があげられており、本業務においては本人や事業所から就労の希望がある限り支援を行う」とあります。そこで、9年目、特に10年目には、職員体制の見直しを抜本的に行い、高齢者・障害者家族・障害当事者を非常勤支援員として多数雇用し、その経験を生かして個々の相談者と共に職場見学、面接、実習等を行いました。カウンター越しの面談でお茶を濁すのではなく地域の職場で共に動きながら評価も併せ行うことで、多様な就労・雇用が実現し、10年目は114名という県内でもトップクラスに入る就職件数を記録しました(表1)。また、地域・職場にどんどん出て行く相談・支援が行われていることが伝わり、関係機関からの紹介も増え、9年目、10

年目は、開設の年を除けば過去最多の記録を更新しました(表1)。

事業所(企業)からの相談も急増(表2)。

就労者(在職者)数でも県内トップクラスになりました(表3)。

以上は就労支援センターの直接の支援についてですが、越谷市の仕様書には他市にない「地域適応支援事業」と「ピア



「ピアサポートによる就労支援事業」が入っており、これらは就労支援センターの事業ですが、当会本部の独自事業との連携めきにはありえなかったでしょう。

地域適応支援事業は、福祉施設等の利用者が職員等の支援を得て市役所等や民間職場で実習・体験を行う事業です。就労のすそ野を地域に拡大してゆく事業といえます。しかし、障害者自立支援法以降、施設の分化が深まり、就労移行や就労A型以外の施設は従来より地域に出て活動する条件が厳しくなってきました。その中で、入所施設も含めなんとか地域適応支援事業に参加しているのは、当会が開拓し施設等に呼びかけて共に働く機会として行ってきたグループワークの役割に負うところが大きいと思います。

ピアサポートによる就労支援事業についてはいまさら説明不要でしょう。ピアサポートという場合、ピアスタッフを雇用する形と、本人たち自身の自助活動を促進する形があり得ます。センター開設1年目には、前者の形をとりました。センター業務の中で、障害者非常勤職員を日替わりで雇用しました。しかし、事務補助以外の相談・支援業務にどう関わられるか見通しが立てられず、1年で終わりました。それに対して、当会の独自事業である世一緒での自助・共助の活動が積み重ねられ、センター相談者のうち希望者を受け入れてゆくようになりました。

その後、世一緒で取り組んだ「仕事発見ミッション」、「グループワーク」の実績を受け、市の仕様書の業務概要に「地域の事業所訪問活動による職場見学や職場体験」、「福祉施設等と連携を図りながら実施するグループワーク」が、ピアサポートによる就労支援の具体例として書き込まれました。

今年5月末で当会は受託を終わりましたが、越谷ならではの就労支援の地平を、新たな体制の下でもぜひ引き継いでほしいものです。そのためには、センター窓口で自らの意思をわかりやすく表すことが苦手な障害者をエンパワメントするなど、できる限りの協力を惜しまないことをここに表明しておきます。

パネルディスカッション

働く障害者たちはいま

—共に生きる職場・地域を探る

1. 雇用主の立場から

尾谷 英一さん (株式会社ニューオタニ社長)

武よみうり

E TOBU YOMIURI SHIMBUN 第1540号

2009年 7 月 6 日
(平成21年)

発行所
東武よみうり新聞社
〒343-0843
埼玉県越谷市蒲生西町3-9
電話 (048)987-0611
Fax (048)987-0614

介護用品・レンタル・販売・住宅改修
訪問介護サービス

福祉の二ツカ

0120-002940

0120-852540
日科三クロン株式会社

障害者雇ってガッチリ!!

越谷・靴底製造
尾谷英一さん

健康者以上の集中力

社会参加へ後押し



障害者の職場参加を進めるシンポジウム
顔写真は知的障害者を雇い頑張る尾谷社長

NPQ法人「障害者の職場参加をすすめる会」鈴木操代表「99年度総会の記念シンポジウムが足月28日、盛谷市中央市民会館で開かれた」

会場には進んで障害者を雇用している事業主が春日部市で靴底の製作工場を経営している矢野英一さん（62）は4人の知的障害者を雇って、自身を含めて社員8人の工場は半数が障害者である。

雇用に踏み切ったきっかけは「市の誘致で豊野工業団地に有利な条件で工場の敷地を買うことが出来たので、自分も社会への恩返しが出来れば」と思いと「すすめる会」の山下浩志事務局長を知っていたという経緯。

靴底の製造には、材料

である合成ゴムを型に流しての切断、穴あけ、接着、周りと表面の仕上げなど、いくつもの工程がある。「障害者はそれを得意な仕事があり、自分の出来る仕事となると、健康者以上に念入りな作業場合があります」と矢野さん。仕事を覚えてもらうまでには辛抱強く指導した。そのかいがあらわれ「障害者を雇うことが不経済とは思いません」と言い切る。最初雇った女性の障害者は既に勤続22年。

「障害者とそれ以外の

押し

またフトボールチーム、フレンチリリー春田部、をつくり、障害者スポーツの全国大会に選手を送り出したところある。ふだんも、何人かの選手を一般健常者のチームに一緒にさせたり、全国を視察し、などの働きにも参加しています。と社長の参加の機会作りにも努めている。

況下でまします。今般々とな
る障害者雇用その今後や企
業への助成を要する。すめ
るの必要性は、様々な問題
点が語られた。尾谷さん
に見られる地域への事業主
の努力は、地域の方々の期
待する。すめる会への
実践活動とあいまって、就
しい中にも希望を感じさせ
てゐる。

加藤 孝

家族と一緒にセーリング
レイクタウン
調節池で

感谷レイタタウンの大相模湖前池で先月28日、社会福祉法人越谷市社会福祉協議会愛の詩其基金助成事業「水の土はバリアフリー」で建てられたリニアセーリングを竣工式が行った。



な場所。セイウヒリテ
イジヤバンの西井伸憲
さんは一現在3隻ある
ティンキを10隻に増
やし、小学生が湖面で

これまでの尾谷さん関連記事

2012. 6. 17 総会記念シンポジウム (職場参加ニュース 28 号)



春日部の工業団地で靴底の製造会社を経営している尾谷さんは 90 年代の末のバブルがはじけた時会社を一度解散したが、その後知的障害 4 名を含む 8 名で会社を再建して現在は他の会社に負けない製品を創り出して有名メーカーの靴底を作りながら知的障害者とともにスローな働き方を模索して会社を維持している苦労話を語ってくれた。一般的には機械化が障害者の仕事を奪ってしまうケースが多いが、尾谷さんの場合は機械化を導入することで障害者が働くことができるようになったというケースを紹介してくれた。

2012 年の共に学び・働くブログより



フレンドリー春日部は知的障害の人々のソフトボールチームだが、靴底加工会社ニューオタニの社員をはじめ近隣市で働く者が多い。はじめ市内のみどり住宅のソフトボールチームに尾谷社長が障害のある若い社員らを誘ったのがきっかけで、いまやチームみどりの選手の半数近くが障害者。障害者だけのフレンドリー春日部をつくったのは後のこと。

チームみどりは一部リーグで今季 3 勝 3 敗。障害者メンバーがフレンドリー春日部として障害者の試合に出るときはみどりのメンバーが不足してしまうが不戦敗

扱いはず、ひとつ上の試合にあげてくれるようになっていくというのが面白い。

かつて障害のある社員の中に小学校のフェンスに顔を付けて子どもたちをみつめていたり、通りすがりの女性の体を触ったりする者がおり、その孤絶を痛感させられた尾谷さんが自分の所属するチームみどりに誘ったら、つぎつぎと参加が続いたという。

町内の盆踊りやふれあい広場で焼き鳥の店を出したり、運動会の荷物運びを手伝ったり、地域で顔なじみになり通勤時にも声をかけられる。イベントを手伝う時「バケツに水 8 分目入れてきて」と言われると???と迷ってしまうメンバーたちだが、周りもだんだんわかってくれてうまく使ってくれるようになったと尾谷さん。

ソフトボールは 20 年前からだが、当時ニューオタニは社員が 26 人。うち障害者が 8 人いた。15 年前山一証券破たんの時、靴業界は軒並み倒産しニューオタニも廃業を決め社員には退職してもらった。しかし障害者と親たちが無給でもいいから続けてと訴え、障害者 4 人、高齢者 1 人と社長夫妻で業務縮小して再スタートした。

もともと技術水準は高く、高級靴の靴底加工の仕事をしている。給料は最賃+α 支給しているが社長夫妻は時給換算で 250 円。それでも尾谷さんは地域で一緒に働きながらみんなと暮らすのが楽しくて仕方がない。

2. 就労支援施設の立場から

科野 玄平さん(障害者就労継続支援A型事業所・あかり施設長)

平成 25 年4月開所

利用者現員:	あかり	29名
	朋	15名
	計	44名

利用者累計:	78名
--------	-----

うち就職者	26 年度	7名
	27 年度	2名
	28 年度	1名
	計	10名

他のA型へ移行	9名
B 型へ移行	1名

就労支援施策の対象となる障害者数／地域の流れ

障害者総数約788万人中、18歳～64歳の在宅者数、約324万人

(内訳:男111万人、女41万人、橋172万人)

一般就労への
移行の現状

① 特別支援学校から一般企業への就職が約28.8% 障害福祉サービスの利用が約61.1%

② 障害福祉サービスから一般企業への就職が年間1.3%(H15)→4.5%(H26)

※就労移行支援から27.2%(H26)

大学・専修学校への進学等

障害福祉サービス

- 就労移行支援 約2.4万人
- 就労継続支援A型 約4.2万人
- 就労継続支援B型 約17.7万人

(平成26年10月)

小規模作業所 約0.5万人(平成24年4月)

地域活動支援センター

就労移行支援サービス
から一般就労への移行

1,288人/H15 1.0
2,480人/H18 1.9倍
3,293人/H21 2.6倍
4,403人/H22 3.4倍
5,876人/H23 4.4倍
7,717人/H24 6.0倍
10,001人/H25 7.8倍
10,920人/H26 8.5倍

就職

企業等

雇用者数

約450万人
(平成11年度:約400万人)
(平成27年度)

パート・アルバイトの
割合就業者数

54.6%(H26)
(平成26年度)

12,555人/年

特別支援学校

卒業生20,532人/年(平成27年3月末)

804人/年

就職 5,909人/年

障害者総合支援法における就労系障害福祉サービス

	就労移行支援事業	就労継続支援A型事業	就労継続支援B型事業
事業概要	就労を希望する65歳未満の障害者で、通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に対して、①生産活動、職場体験等の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、②求職活動に関する支援、③その適性に応じた職場の開拓、④就職後における職場への定着のために必要な相談等の支援を行う。 (利用期間:2年) ※ 市町村審査会の個別審査を経て、必要性が認められた場合に限り、最大1年間の更新可能	通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を行う。 (利用期間:制限なし)	通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。 (利用期間:制限なし)
対象者	① 企業等への就労を希望する者	① 就労移行支援事業を利用したが、企業等の雇用につけなかった者 ② 特別支援学校を卒業して就職活動を行ったが、企業等の雇用につけなかった者 ③ 企業等を離職した者等就労経験のある者で、現に雇用関係の状態にない者	① 就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者 ② 50歳に達している者又は障害基礎年金1級受給者 ③ ①及び②に該当しない者で、就労移行支援事業者等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている者
報酬単価	711単位(平成27年4月～) ※ 利用定員が21人以上40人以下の場合	519単位(平成27年4月～) ※ 利用定員が21人以上40人以下の場合	519単位(平成27年4月～) ※ 利用定員が21人以上40人以下の場合

各支援機関の連携による就労支援のイメージ

就労移行支援事業所等が就労面のアセスメントを実施

※ B型事業を利用する場合は必須

就労アセスメント

就労面のアセスメント結果や特別支援学校等(※)からの情報を踏まえ、相談支援事業所がサービス等利用計画を作成

(※)「特別支援学校等」は高等学校及び中等教育学校の後期課程を含む。

サービス等利用計画の作成

A型・B型事業所で働くことが適している者はA型・B型で継続的に就労

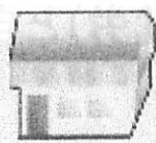
事業所は生活の安定や能力向上に向けた支援を実施



就労継続支援事業所
(A型・B型)

障害福祉サービスを利用しなくても一般就労への移行が可能な者については一般就労への移行を支援

A型・B型事業利用者のうち一般就労への移行が可能となった者については一般就労への移行を支援



就労移行
支援事業所

一般就労

一般就労の継続が困難となった者についてはA型・B型事業への円滑な移行を支援

一般就労へ移行した者についても、生活面の支援が必要な場合は関係機関が連携して支援を実施

(以上いずれも厚労省資料)

3. 就労支援センターの立場から 大野 弘幸さん(三郷市障害者就労支援センタ ー就労支援員)

これまでの大野さん関連記事

「職場参加と合理的配慮」めぐって(共に働く街を創るつどい
2009)



三郷市障害者就労支援センター職員で障害当事者の大野さんは、求職者と事業者、障害者と障害のない人...互いに相手にこうあってほしいと求めることを、逆に自分が相手に対して行っているのか、自分に問い直してみることも大事なのではと語っていました。

パネル討論:ピアサポートによる障害者就労支援 その可能性と環境 (共に働く街を創るつどい 2012)

三郷市障害者就労支援センターの利用者・塚原さんと実習を受け入れた郵便局の相沢さんと

塚原雄大: 統合失調症。三郷郵便局勤務。三郷市障害者就労支援センターと職場の上司に支えられ郵便局で働いている。実習に来る障害者のサポートをしたり、職場で精神の病気になった人の相談に応じたりしている。

大野: 三郷市就労支援センター。郵便局での職場実習で社会に受け入れてもらった実感を得た人が多い。

相澤: 郵便局の上司。その人の目線で仕事を考えることによって自立を支える。そういう職場を増やしたい。

「障害者の職場参加(多様な就労)と自治体—いま地域では」(総会記念シンポジウム 2014)



越谷市の場合は NPO が障害者就労支援センターを受託していますが、三郷市は市直営で運営しています。障害福祉課と直結しているといいことも悪いこともあり、チャレンジ雇用の制度を生かして、千葉県庁みたいなことを三郷市でも目指し、難しかったという話をします。

最初全庁にこういった仕事があったら下さいと説明したのですが、仕事の依頼はゼロ件。障害者ができるのか、間違えたらどうするのか、個人情報などは、そういったときはどうしようと役所側は不安に思っていました。でも一回やってみようと、双方の気持ちが変わります。役所は怖い、緊張するとか、お役所対応されてイラッとしていた人が仲良くなっていたり、誤解が解けていく。児童館で勤めていた人や学校事務にいた人が小学校の時にいた人で、再会して、当初は絶対報告にはいかないと言っていた人がその職場なら行けるとか、ちょっとしたつながりができてきます。今回優先調達法に任せ、予算を組んでもらいました。一方では、就労というところまでどうやってマネジメントしていくか、各課と調整していくかというところで、就労支援センターの本業があり、なかなか先に進んでいません。今後どうなるか。予算配分の問題もあるので。

大野さん自身、精神障害の当事者。同センターは「就労準備室」を設置しピアサポートの試みも。

4. 生活支援センターの立場から 若林佳音子さん(春日部市障害者生活支援センターえん)



春日部市障害者生活支援センター

えん

春日部市障害者生活支援センターとは

障害がある人達が地域で暮らしていく上でさまざまな問題に直面することがあると思います。本人や家族だけでそれらの問題を解決することは、難しい場合も少なくありません。

このセンターは、春日部市近郊に住む、そのような問題を抱えている障害当事者およびそのご家族のために、相談にのり、一緒に考えていくところです。

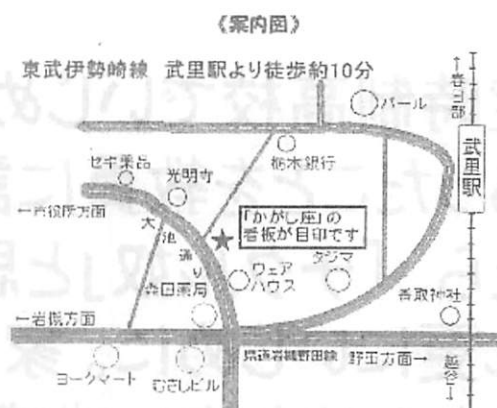
いろいろな人々との相談や交流を重ねることによって、地域がみなさんにとってより住みやすい街にすることを目指しています。

センターの特色

地域で生活している障害者スタッフ（ピアカウンセラー）と従事者スタッフが常駐し、さまざまな相談にのります。ご連絡いただければ、こちらから何うことも可能です（応相談）。

相談のさい、費用はかかりません

（ただし活動などに参加される場合は、別途交通費や実費がかかることがあります）。また、利用者参加型の企画なども計画しています。



春日部市障害者生活支援センター 委託法人：（社）つくみ共済会

春日部市障害者生活支援センター

住所：〒344-0021

春日部市大場 1281-1

TEL/FAX：048-737-3011

E-mail: kasukabe-seikatusien@rice.ocn.ne.jp

相談日は火～土です。

時間は 10時から17時です。

なお、日・月・祝祭日は、お休みとなります。

時間外でも緊急時には電話で対応いたします!!

たとえば...

- ・活動範囲を広げたい
- ・ヘルパーを使いたい
- ・制度について知りたい
- ・ひとり暮らしをしたい
- ・働くことに興味がある
- ・とにかく話を聞いてほしい

など...



障害のある人も

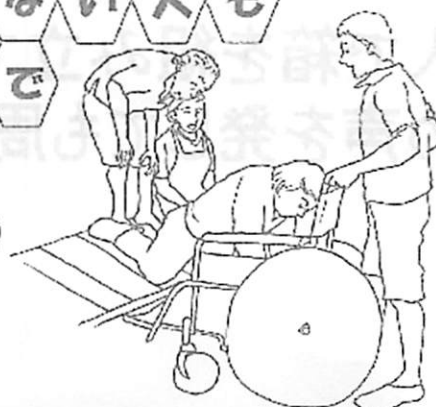
ない人も

地域で

お気軽に、

お立ち寄り

ください!



5. 働く障害者の立場から 幡本建祐さん(越谷市在住)

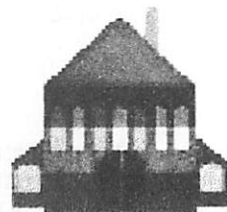
共に学ぶー選別・差別意識ー自立と共生

定時制高校でいじめにあったことを教員に話したら、「チクル奴」と思われ更にいじめに。家で物にあたり家族に迷惑を。母が就学・進学ホットラインに電話し会と出会う。



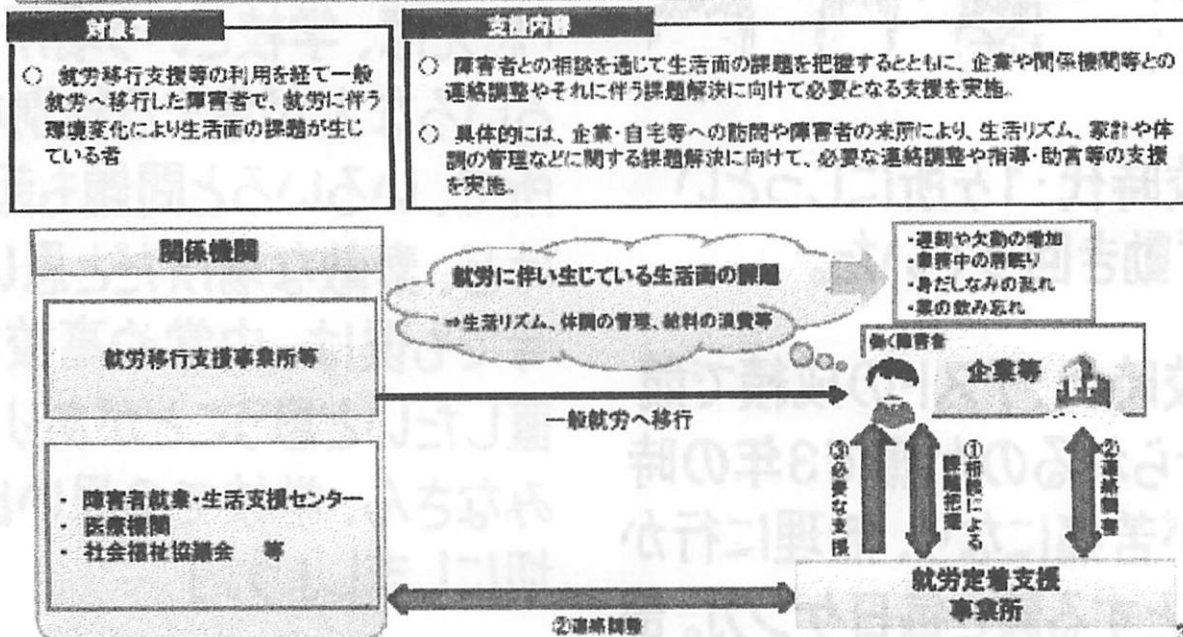
嫌な思い出が映画のようにフラッシュバックする。1日200回もあり、怒りがこみあげ怒鳴ったりしてしまう。時に楽しいフラッシュバックもあり笑ってしまう。介助も手抜きになるが、逆にそこを橋本画伯に気に入られ専従となる。

紆余曲折の後、PC修理工場で勤務する。一人で箱を組み立てる担当で、騒音職場のため声を発しても周りに聞こえない。



就労定着に向けた支援を行う新たなサービス（就労定着支援）の創設

- 就労移行支援等を利用し、一般就労に移行する障害者が増加している中で、今後、在職障害者の就労に伴う生活上の支援ニーズはより一層多様化かつ増大するものと考えられる。
- このため、就労に伴う生活面の課題に対応できるよう、事業所・家族との連絡調整等の支援を一定の期間にわたり行うサービスを新たに創設する（「就労定着支援」）。



平成 27 年 3 月 17 日（火）
障害福祉サービスの在り方等に関する論点整理のための
ワーキンググループ（第 7 回）発言資料
参考人 朝日雅也（埼玉県立大学）

1. 障害者の就労に関する制度的枠組について

《基本とすべき考え方》

○ サービス提供者側、事業者側の論理ではなく、障害者の「働きたい」を実現する利用者本位の制度設計が必要である。

⇒ 従来の枠組みにおける支援対象者が現存する中での制度設計は難しい側面もあるが、少なくともサービス提供者側、事業者側の都合を優先すべきではない。

○ 障害の種類、程度に関わりなく、一定の年齢においては、まずは、「通常の職場にいるべき存在」と位置付けることを出発点とすべきである。

⇒ 障害者権利条約に規定される（第 27 条）、「障害者が他の者との平等を基礎として労働についての権利を有する」を踏まえ、障害の種類、程度に関わりなく、例えば 18 歳以上の障害者については、本来「通常の職場にいるべき存在」として位置づける必要がある。

《制度的枠組の方向性》

○ その上で、働くことを希望する（権利擁護の結果、働くことを勧める）障害者に、多様な就労機会を保障する必要がある。

⇒ 障害者雇用の可否については、事業所の考え方や環境要因によるところが大きい。しかしながら、それでも直ちに一般就労の機会を得ることが難しい障害者が存在することも事実である。

⇒ 健康を損なうことなく、身を削ることもなく、しかし、仕事を担うことでの自己有用感や社会参加の実感の獲得を支える就労機会の保障が求められる。

○ 生産的・経済的活動への参加を可能にする多様な機会も保障する必要がある。

高まる機運 厳しい現実

とともに働く 障害者雇用は今

いづになれば、この不安から解放されるのだろうか。12年間で就職した会社は30社近く。安定して働ける場所をなかなか見つけない。企業で働くことは難しいのか。社会に出てみると一緒に働きたいんですが……。精神障害のある上尾市の男性(32)は表情を曇らせる。

冷たい風が吹く昨年12月。男性は、さいたま市大宮区のソニックシティで開かれた障害者対象の就職面接会場でスーツに身を包み、履歴書を手に入れた。

周囲には手話通訳者と手話で会話をする人や、車いすに乗って会場内を移動する人も。それぞれ障害は違っても、「企業で働きたい」という思いは同じだ。

◆福祉から就労へ
障害者の雇用環境は「数年前、大きく変わっている。2013年4月、企業の新従業員に占める障害者の割合(法定雇用率)がそれまでの1・8%から2%へと引き上げられた。従業員50人以上の企業は障害者を1人以上雇用しないといけない計算だ。15年4月には、法定雇用率を達成し、いない企業にペナルティー(納付金)を科す対象が「労働者200人超」から「100人超」に拡大した。

16年4月からは障害を理由に採用や賃金面で不当な差別を禁止するなど、健常者と同等な機会を確保する「合理的配慮」が義務付けられる。18年からは精神障害者の雇用が義務化され、雇用率がさらに上がる予定だ。

なぜ障害者の雇用環境が変わってきているのか。障害者の就労に詳しい県立大学(越谷市)の朝日雅也教授は「福祉から就労へ」という流れがある」と指摘する。「これまで障害者の多くは福祉施設で軽

「勤めたい」思い届かず



障害者を対象とした就職面接会。障害はそれぞれ違うが、「企業で働きたい」思いは共通だ—昨年12月、さいたま市大宮区のソニックシティ

作業を行ったり、企業現場からは遠くを走らなければならなかった。それが労働力不足や「社会に参画したい」という障害者の意欲の高まりもあり、企業現場で働く環境が整備されてきたという。「障害者も一人の働き手として社会の一翼を担っていくんだ」という考え方がだいぶ共有されてきたのでは。

朝日教授はそうみる。

◆達成は半数以下

企業側も障害者の雇用を加速させている。埼玉労働局によると、県内企業の雇用率は年々上昇。11年は全国ワーストだったが、15年は33位に。昨年12月の面接会では、参加申し込みを締め切った後も10社近くから問い合わせがあった。同局の担当者は「障害者を雇用するという意識が広がっているのでは」と話す。

だが、樂觀できる状況とはいえない。県内の実雇用率(15年6月時点)は1・86%で、全国平均を0・02%下回る。

法定雇用率を達成している企業は45・8%で、半数に達しない。従業員数が少ないほど達成率が低い傾向にあり、業の規模によって差が出る。数値は上昇傾向だが、まだまだ現実厳しい。

「障害者雇用の意識は広がっているが、障害に対する解不足や不安が雇用につなっていないのでは」。同局担当者は分析する。中には「障害者の経験がない企業が少ない。障害者と企業どう向き合っていくのか。行錯誤が続けられている。」

◆ ◆ ◆
障害者の雇用環境が、大きく変わりつつある。県内の状況を追った。

(次回から社会面に掲載)

新幹線

熊谷市

熊谷市は15日、市内で在職者購入し都内などに通勤する市民に新幹線定期購入代金一部を最長2年間補助する事業と、大学進学などで利用した奨学金を返還する市民の子の一部を最長10年間補助する事業を新年度から始め

⑥識者の目 朝日雅也 県立大教授

「質」求め企業の戦力に

「ともに働く」 障害者雇用は今

近年、変化が顕著な障害者雇用。求めていることが、企業側にと用。県内企業の雇用は進んでいないが、課題も多い。雇用促進には何が必要で、どんなことに気を付けなければならないのか。障害者の就労などに詳しい県立大学の朝日雅也教授に聞いた。

「県内企業の障害者雇用は決して十分とはいえない。雇用率など法的な義務があるから、やむを得ず雇っている。玉はそれらの支援体制がすぐく充実している。全国から注目されるほど。ネットワークをうまく生かしながら進めてもらえると良いと思います」

「雇用人数など」量的な達成だけにとどまらず、質的なものを求めている。企業側にと

支援機関と連携、定着を



障害者雇用の現状について語る
県立大学の朝日雅也教授(越谷市の県立大学)

を早めに察知して、職場や支援機関が関わっていくこと。支援機関の関わりは重要ですが、職場でしかできないサポートもあります。職場の中で「この作業は大変だね」とか、「つらくない?」とかが言えるような関係性をつくることも大事です。

「長期的には年齢を重ねれば身体機能が低下したり、家族負担がもたせませんが、雇ったサポートがなくなったりする。逆には自信がめいいるような工夫をするのは障害の有無に関係なく当然のこと

もでてくるでしょう。そういった変化を見据えながら支える仕組みを考えていくことが必要です」

「1つ1つ4月から合理的配慮の提供が義務付けられる。障害の種類や仕事内容などによって配慮事項は違ってくる。例えば、精神障害者にとっては通院時間の確保は合理的配慮の一部だし、視覚障害者にとっては紙に書かれた資料を読み込むのは難しい。内容は千差万別です。事業所にとってはやや負担がもたせませんが、雇った人には能力を発揮してもらったこともあります。逆に自信がめいいるような工夫をするのは障害の有無に関係なく当然のこと

「特例子会社が増えている。親会社にとっては雇用率を達成するコンプライアンスの観点もあるでしょうが、それが最終的な目的ではないと思っています。特例子会社で得られたノウハウを親会社にフィードバックし、障害者が親会社でも働けるようにすること。そのための道筋として特例子会社が位置付けられていれば、有効な手段になるのではないだろうか。生活面も含め、顔が見える関係の中で長期に支えていくことが必要なので、地元の企業には頑張ってもらいたいです」

「(この連載は中島和哉が担当しました)」

世一緒 スタッフ日記

世一緒スタッフは離職後や未就労で、働くイメージが持てない人を含め、地域・職場への各々の参加の仕方を体験を通して探るため世一緒に関わっている人達です。サポーター（非常勤やボランティア）の支えを受けて、世一緒の当番（ピアサポーター実習）や仕事発見ミッション（事業所訪問）、グループワーク等を行っています。障害や病気のある人もない人もいます。

水上公園の感想

笹原 涼子

高校をそつぎようして、2007年の3月から蒲生にあるトップパンブラスチックという工場で働いてました。1日3時間、週5日働きました。2015年3月にたいしょくしました。たいしょくの理由は、会社がいてんするので、会社からかいこつて言われました。2015年4月にハローワークに行った。

世一緒にきて、8月3日水やりを1時間位やつた。暑かつた。

好きな学科は国語、小説読むのが好きです。夏目漱石の「こころ」を読んで、何だこれって、思いました。「こころ」読もうとした理由は、お婆さんの家に、あつたから読んでみようと思いました。図書館に、行きます。

自分から話をするのは、苦手です。世一緒に、きた感想は、どんな所か、お母さんと来ました。その次逆井さんと知り合いました。草むしりしたり、お昼食べたりしました。今日も水まきです。

祭りバイトをしよう

黒田 正己

最近、夏がいじょうに暑い日が

つづいた中で、夏の祭りのバイトや大変で、さいしょは、障害者としてやとつてくれましたが、ある日、車のめんきよの事言われた時に障害者で生まれつきのテンカンで薬をのんでる事言いました。それでも、まじめにやつてゐるし、一人でやつてもお金ごまかさずに、うりあげさんとつたりしないし、中にはお金うりあげさんがあわない人もいます。うです。まじめにやつてれば、障害者でもみとめてくれてバイトやれるんだーとうれしくなりました。

月水は、世一緒に行き、いろいろかつどうして、月にいちどは、カッポに行きけんちようの中をまわり、お菓子、ジュースをうりに行きます。そのほか最近、友だちとカラオケに行ったり、浅草のサンバカーニバル行ったり、表参道のスーパーよさこいに行つて、たのしい時間をすごしました。

県交歩を始めて

逆井 奈津子

私は、2日間行われた、県交歩に参加しました。私が発言した内容は、「A型事業所」についてでした。私は、去年「A型事業所」に通つていたので、改善して欲しい所を伝える担当になったので、自分が思った事を、

を、作文にして伝えようと考えて発表をしようとして、準備して、本番に臨みましたが、司会の人に「手短にお願いします。」と言われたので、緊張と同時に、頭が真っ白になつてしまいました。うまく説明が出来なくなつてしまいましたが、でも、発表した後、みんなが「ちゃんと伝わつてたよ。大丈夫。お疲れ様。」と言つて貰えたので、思わず、恥ずかしいですが、泣いてしまいました。

でもこの発言によつて、少しでも「A型事業所」や「企業」も含めて、県から働きかけてくれて、少しずつでも変わつていくつてくれたら嬉しいと思います。今回初めて、この県交歩に出席しましたが、この県交歩に参加してよかったなと思ひました。貴重な経験に感謝の気持ちでいっぱいです。

いろんな仕事をしてみよう

山崎 有子

中学を卒業してから新川町の滝ゴム会社にしゅうしょくして1年はたりました。かんせつえんになつて会社をやめました。草加のハローワークに何回いったですけど仕事がなくつてききよくだめでした。母親と相談をしてから母親のしつている人が会社（AMサウンド）をやつていたのでその方が良たら

きてみないといわれて、そこで母親と一緒にいきました。仕事のないうは、カラオケのかしカードをそろえてそれが終たらカセットテープをきかいていきました。すぐ会社の人やさしいかつたでした、カセットテープがいいにビデオテープをの写真をいれてビデオテープをケースにいれました。それを20才までやりました。

越谷市立しらこぼとしきようセンターにはいりました。その時に草加のハローワークに行きました。草加のしまむら八幡に行きました、さいようをされました、ようふくのせいいりそうじパジャマをはがにかけました。そうじをして他の店長さんにちゅういをされました、それであなたは仕事が出来ないなら前にいたしきようセンターにもどれと言われしました（32歳）。母親とそうだんをしてケースワーカーにそうだんしてききよくもどれなかつたです。又家にいました。ケースワーカーさんと又そうだんをして、おぎしまえんに5カ月かよいました。それからこぼと館にはいりました。ようやく越谷しゅうろしえんセンターにとろくをして岩つきのパルシステムの会社で3年間（7年前）いきました。こしをけがしたのでたいしょくをして世一緒にしようかいされました、又仕事が出来たらしたいと思ひます



NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

世一緒 スタッフ日記

病気や家庭、社会からの解放

松丸 和弘

アルコール依存症で家庭を無茶苦茶にした父、子供達が別れてくれと頼んでもけんかしながらも別れようとしてくれなかった母、中学の二年の時、陰湿ないじめをしかけた奴ら、高校の時のラグビー、その後、続けていた音楽、全て一生けん命やって、手の届くあたりに近づくと故障をして断念せざるを得なくなる自分の体の弱さを恨みました。

社会に出て、サラリーマンの価値観と合わず、何をやってもうまくいかなくてやけになつていた時、初めて飲み屋で会った人に紹介された仕事をきっかけに、会社の社長になりどんどん成長して大きくなっていききました。そうしたら今度は、自分の持病の精神病とストレスで父と同じアルコール依存症に陥つてしまい、会社を閉鎖に追い込んでしまいました。

その頃、自分がいろいろな病気や体の弱さをもって生れてきた事自体を恨んで生きていました。

その後、母がパーキンソン病になり約七年位つきっきりの介護をしました。母が入院してしまったのをきっかけに、いろいろアルバイトをしてみたんですが、心身共に力が落

世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し、よりよく生きるために、世一緒に関わっている人々を「スタッフ」と呼んでいます。世一緒は専門家が障害者を指導・訓練する場ではありません。現に就労している人、就労準備中であつたり、離職後だつたり、立場はさまざまながら、街の中でほかのみんなと一緒に生きてゆく道を探ることが世一緒の事業です。サポーター（非常勤やボランティア）の支えを受けて、世一緒の当番（ピアサポート実習）や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事（花壇整備、除草、ポスティング）のグループワーク、主婦や高齢者が地元のお店や事業者と一緒に街ににぎわいを創りだすための「水辺の市」の手伝いなどもしています。

ちてしまったようで、ほとんど半日、一日で首になつてしまい、ひどいうつ状態になつてしまいました。

二年半前迄、自分の精神病を恨み、何とか生活保護で生き延びているだけで、生きている意味さえ解かりませんでした。

ところが、二年程前に、担当の先生から、君の病気は、現在いろいろ臨床実験は、行われているが、君が生きている間は絶対に新薬も療法も出来ることはないから、死ぬ迄、この病気とつきあいながら、何が出来るかという事を考えなさいとはつきり言われ、逆に今迄の恨みやもやもやがなくなりました。

父母も死去している今、今迄の体験やこれから身につけたいと思つて、いる教養をつけて、自分が思う理不尽と死ぬ迄戦つていきたいと思つています。

今、僕は解放されました。

まだわかりません

内藤 雄介

アイルビーバックに行こうと思つた理由は、自分が働きたいと思つたからです。それと、働いてお金がほしいからです。

ほしい物などがいっぱいあるからです。あとは、他の世一緒のメンバーがA型などの仕事先がきまつたからです。

私は母と一緒にアイルビーバックに行き、その中でやっている仕事などを見学し、それに体験などもしてきました。

おもな仕事は、はこをくみ立てたりしました。かんたんでうまくできました。

それに家から30分という少し長い時間ですが、まだ入れるかどうかわかりません。

Clouds越谷に入社して

山崎 有子

私は2月10日、Clouds越谷に見学に行きました。タオルおりを初めて体験しました。Clouds9職員さんにほめられてよかったです。

2月22日、Clouds9入社をしました。タオルおりとかたばこのはこおり、PC作業、ふうとうおりとかやりました。池本さん、木田さん、竹林さんにしんせつに教えて下さつてうれしかったです。友達も何人か出来てよかったです。月の終わりにClouds9の友達とカラオケに行きました。たのしくすごしています。

あわてず仕事をさがす

佐藤 秀一

はじめはともだちからA型のほうの仕事においでとさそわれたのでみにいった。いくとときにとちゅうでころんでしまった。けんがくしたらせまくてつえもつかえないところだめだと思った。

そのあとしゅうろうしえんセンターに親もよばれていった。B型をみにいったらどうかといわれたのでみにいったけどいききたいと思いませんでした。

お母さんと家で話しあつて妹も来てくれて、あわててさがしてもしようがないからおちついてさがしたほうがいいと言ってくれた。そのうちにいい仕事があるかも、あわててさがしてもみつからないよと言った。自分でアルバイトとかパートをさがしてみようかなと思つた。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。どうぞ、ご協力をお願いします。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内（ハローワーク斜向かい）
048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/



世一緒 スタッフ日記

僕の仕事について

佐藤 達哉

僕がいつも仕事でお世話になってる人がいて、Kさんという人で、電話で注文をとり、そのひとがいつもみなさんにたとえば、ミカンをやってくれ、といいます。

いろんな箱があつて、トマトとジャガイモがありました。ピーマンもあります。僕がいつもお世話になっているNさんという人がフオークリフトで野菜をはこんでくれてます。

全国からトラックで、いつも僕の会社に、朝からやってくるので、いつもたすかっています。これから仕事があるようによろしくお願いします。

いろんな仕事をおぼえないといけない、と思います。僕のところはパートのおばちゃんが多いけど、みんな力があります。

市場で働いていました

柴 哲

昨年の十一月二十五日から世一緒へ行きました。ハローワークで就職の話し合いをしたり2階で手続きをしたりしています。風間さんの話し合いをしました。



世一緒スタッフは離職後や未就労で、働くイメージが持てない人を含め、地域・職場への各々の参加の仕方を体験を通して探るため世一緒に関わっている人達です。サポーター（非常勤やボランティア）の支援を受けて、世一緒の当番（ピアサポーター）や仕事発見ミッション（事業所訪問）、グループワーク等を行っています。障害や病気のある人もない人もいます。

子どもの頃は幼稚園で遠足を行ったり生活発表会をやったり音楽会をやったり、小学校で遠足、社会科見学、林間学校、修学旅行を行ったり、中学校の時遠足、移動教室、宿泊学習、修学旅行、校外学習、社会科見学。

市場で妻物とちや出しとつめる物をしました。自宅で洗たくしたり、洗たく物を干したり、そうじ機かけたり、ふとんを干したりしました。ふろそうじをしたり、台所を洗ったり、夜犬におしっこさしたりしてやっています。ふとんを後片付けしたりたたんだりしています。

羽生さわやかマラソン大会希望したりします。鹿沼さつきマラソン大会希望したりします。足立区タートルマラソン大会希望しています。荒川リバーサイドマラソン大会希望しています。

わたしは世一緒になんておもったことは、わたしがよいしょのトイレにはいったままでられなくなってしまうって、ドアのところをけつたりしたけれどもしばらくでられませんでした。あとは、よく、きんようびのパートナーがまたかわるなあとわたしはおもいます。

世一緒にきてからのこと

友野 由紀恵

わたしは世一緒になんておもったことは、わたしがよいしょのトイレにはいったままでられなくなってしまうって、ドアのところをけつたりしたけれどもしばらくでられませんでした。あとは、よく、きんようびのパートナーがまたかわるなあとわたしはおもいます。

たしはおもいます。

あと5ねんまえのじしんのときも世一緒のどんわばんしていて、そのときにも、しばらく世一緒からべしみにでんわがつながらずしばらくよいしょにいました。

さいきんさんのくらしは、あたらしいズボンをかいたものにいつてきました。

重い腰がさがりました

石丸 洋介

初めまして、私は春日部の武里に住んでいます。

私は2年前作業所に通所していましたが、一身上の都合により退所することになり、2年のブランクを経て自宅の近くにある支援センターえんさん、春日部の就労支援センターの協力のもと、働く意欲と生活リズムを整っていきなかつたのが、世一緒さんの長谷川さんやえんさんが自分に強いプレッシャーと仕事をあたえていただいたおかげで、重い腰が上がり働けることができました。とても感謝しています。

これからも世一緒さんの作業や通所しながらハローワークに通い、A型作業所で働くことを目標にしていきたいと思っています。

グループホームにいます

阿部 吉江

私にはお兄さんとお姉さんがいます。ひまこがいます。お姉さんの子どもです。おねえさんのこともです。かいしやに入ってお仕事をしています。まだわかいのですきなことしたいと思っています。うまれてきてよかったと思っています。がんばっていると思っています。

お母さんといっしょにくらしています。おはなしをしたりしていました。おかいものにいっしょにいたりしました。たのしかったです。みんなといっしょにがんばっています。グループホームにはいってくらしています。さいきんできたグループホームなので、人がたりないのでみんなでよくちをつくっています。私はなれてきました。よろしくおねがいします。

はやくしゅうしよくしてみんなといっしょにお仕事をしたいと思っています。お仕事をしたい人はおくれないようにしておかねおもらっているんだなと思っています。私もなりたいと思っています。がんばります。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。どうぞ、ご協力をお願いします。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内（ハローワーク斜向かい）

048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/



世一緒 スタッフ日記

世一緒スタッフは離職後や未就労で、働くイメージが持てない人を含め、地域・職場への各々の参加の仕方を体験を通して探るため世一緒に関わっている人達です。サポーター（非常勤やボランティア）の支えを受けて、世一緒の当番（ピアサポーター実習）や仕事発見ミッション（事業所訪問）、グループワーク等を行っています。障害や病気のある人もない人もいます。

早く世一緒で仕事したい

青木 繁明

私は現在、デイケアに週5日（曜日・金曜日）毎週でています。いろいろのかだいに挑戦しています。毎週ちがうのですが、木金は、書道を、月水は、グループ活動、火曜は卓球という流れです。家にいる時は、散歩がてらマクドナルドや駅のパン屋の奥で、モーニングを取りながらこーひーを、いただいています。たまに知人と親しく話し込んだりしています。年齢も近いので、1、2時間話しています。部屋に帰ったら、洗濯したり、テレビを見ています。

部屋の方達とは、農園とか合同ミイティングとか家賃支払いの時に合流して過ごしています。最近このままでいいのか常々考えていることがあります。旅行がしたく彼女が、出来れば、いいなと考えたり悩んだりしています。司法書士が、はいりましてが少しづつたまってきていますので、心配していません。早く世一緒の人達と仕事をしたいです。

最近のこと

黒田 正巳

自分が思う世一緒は、前はもつとしゃべる人たちがいて、いろいろやる事があった時は、サ

ポターの人の力もかりましたがうまくやってました。今来てる人は病気で話しができないし、こつちがなにか言わないかぎり話しもしないし、何もやらない状態で大変です。それと人としやべらいからいるのかわからない時もあります。自分は、仕事やめてから世一緒に来ているんな人とかかわったり、何かしてなかったらつまらない人生をおくってたような気がします。

秋山 俊也
サッカーがたのしかったです。サッカーがゆうしようできるとうれしです。おかあさんのしんせきのひとがなくなつてびっくりしました。しごとはやくやりたいです。サッカーがやつてうれしかった。ソフトボールをやっているのたのしいです。ソフトボール3月に大会があるのがんばりたいです。あぶらえことわつてきました。ソフトがさいたまスタジアムであるのがんばります。サッカーがないときソフトボールがやります。

一人で抱え込まないでいい

日下 淳

初めまして、私は、日下といひます。ここに来たのは、支援センターからの紹介で、来ました。自分が抱えている悩み事を相談したり、一人で抱え込まないように、パン作りにも参加しました。

パン作りしていて、もつといろんな作業したりしながら自分が抱えている障害とかに向き合ひながら、色んな出会いを大切にして行きたいと思うので宜しくお願いします。

サッカーとソフトボール

秋山 俊也

サッカーがたのしかったです。サッカーがゆうしようできるとうれしです。おかあさんのしんせきのひとがなくなつてびっくりしました。しごとはやくやりたいです。サッカーがやつてうれしかった。ソフトボールをやっているのたのしいです。ソフトボール3月に大会があるのがんばりたいです。あぶらえことわつてきました。ソフトがさいたまスタジアムであるのがんばります。サッカーがないときソフトボールがやります。

世一緒に来ては楽しんでいます

駒井 りか

今までおぎしま園に行つてた時は、作業を評価高くなるまで集中して取り組みました。そして今年の9月末でおぎしま園を辞めて、世一緒に参加してる中ポステイングに1回参加したり、仕事と発見ミッションに参加した時は直井さんからの指示を脳であんきして車からおりました後戻りして定員さんと店長さん達に紙を配りながら「見学と体験させてもらえますか」とお願いしました。

そして今年の9月末でおぎしま園を辞めて、世一緒に参加してる中ポステイングに1回参加したり、仕事と発見ミッションに参加した時は直井さんからの指示を脳であんきして車からおりました後戻りして定員さんと店長さん達に紙を配りながら「見学と体験させてもらえますか」とお願いしました。

結の会、おしこや見学交流

山崎 有子

そして店長さんと世一緒の直井さんに語らせて仕事の発見が出来ました。反省会では直井さんからも長谷川さんからも「駒井さんは積極的にやれてすごい」とほめられました。その後は私もチラシの募集見て連絡して面接を受けました、それで「障害者としてあつかってもらえますか」と言つて履歴書出したら1週間後に「可能です」と連絡が来ました。これからの私は、越谷花田店のマルサンで青果の袋詰め作業をマイペースに行いながら慣れた手つきで頑張っていきます。

結の会では、私が前に通つていたせつで、せつけんづくりがすごくなつかしいかったです。良くおちると言われましたけど私も欲しかったけど、お金が無かつたのであきらめました。お昼のランチがすごくおいしいかったです。

あしたやではしんせん野菜がおいしそうでした、無農薬で出来ているのかなと思いました。ぜひ色々な交流をしたいです、遠くは千葉とか行つたら大阪のこうりゅうをしたいです。

楽しいかったです。又いきたいです。今日一日ありがとうございました。勉強に成つて良かったです。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。ご協力をお願いします。ありがとうございます。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内（ハローワーク斜向かい）

048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www.5b.biglobe.ne.jp/~yellow/